

# F o r e s t 通 信



林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター No.294

巻頭 photo 高尾山の生き物たち



## オナガアゲハ(アゲハチョウ科)

五月晴れに赤色のツツジ、まさに初夏の風物詩といえます。そのツツジの蜜を吸いに、各種のアゲハチョウがやってきます。

写真は5月初旬、裏高尾で3頭共演の「蝶の舞い」を撮影したもので、上がオナガアゲハ、下左右がカラスアゲハです。

虫たちの生命は儚いものです。天寿を全うさせてあげたいものです。(写真・文 大作栄一郎氏)



## ホタルブクロ(キキョウ科)

各地の山野によく見られる多年草です。全体に毛が生えていて、高さ80センチにもなる長い茎を伸ばし、葉身はハート形です。初夏になると、柄の先に長さ4～5センチのつり鐘形の花を数個、うつむき加減に咲かせます。

名の由来については諸説ありますが、「火垂る(ほたる)」。これは「火を垂れさげる」という意味であり、日常語としては「提灯」のことを言ったものです。ホタルブクロの形が提灯に似ているので、「火垂る袋」と呼ばれたのだろうという説があるようです。

## いろはの森

平成25年4月1日付けで、高尾森林ふれあい推進センターに着任した所長の関下です。よろしくお願いします。

以前勤務した地では、ナラ枯れによりミズナラが大量に枯死し、大きな問題になっていました。被害を受けたミズナラ林は、夏頃に赤茶色に変色し、早くも紅葉が始まったかの印象を受けます。また、被害木の幹には多数の小さな孔が見られ、おが粉のようなものがたくさん地面に落ちています。

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシが運ぶナラ菌が樹幹内で蔓延し、それに反応して生産された代謝物が導管に目詰まりを起こして水分の通導を阻害して枯れさせるものです。このキクイムシのように、菌を体に宿して運搬し、それを培養して幼虫の餌にするものを、

アンブロシアビートルと呼ぶそうです(アンブロシアとはギリシャ神話に出てくる不老不死の食物のこと)。

ナラ枯れは、正式にはブナ科樹木萎凋病といい、その名のとおりのブナ科の樹木に被害を及ぼすのですが、今のところ、ブナとイヌブナには被害が見られていません。理由は不明ですが、ブナ科と一口にいってもたくさん種類があるので、わずかな構造の違いで被害に強いのかも知れません。

さて、ここ高尾山にもブナやミズナラが生育しています。特に、山頂付近ではブナとイヌブナを一緒に見ることができます。今までは、物珍しさで立ち寄ってきましたが、これからはナラ枯れにも注意して見ていきたいと思います。

(高尾森林ふれあい推進センター所長 関下俊則)

●高尾森林ふれあい推進センターは、皆さんが高尾山の自然に親しみ、森林や林業に理解を深めるための諸活動を行っています。

## 草木染めの歴史

人工染料が登場する以前は、人々が身につける着物等は身近な草木を用いて染色していました。紀元前1000年以上前から、古代エジプト、ペルシャ等において近代まで使われた藍色の元となるインジゴや赤色の鮮やかなアリザリン等の染料がすでに知られていたようです。日本においても、弥生時代中期の吉野ヶ里遺跡から出土した絹織物の縦糸からは日本アカネ、横糸からは貝紫の染料が検出されており、その頃には、すでに布などの染色技術があったと考えられています。

人工染料が発達して、天然素材を使用した染めの技術は古いものになりつつありましたが、1930年に伝統的な染色技術の復興に取り組んだ作家の山崎斌が、人工染料による染色と区別して、天然染料による染色を「草木染め」と命名したとされています。

草木染めは、植物の葉、枝、樹皮や根などにふくまれている自然の色を抽出して、糸や布を染める技術です。入門編として、身近な材料であるタマネギの皮を使った染色を簡単に紹介します。

1. ステンレスのボールにタマネギの外皮60グラムと水約1リットルを加え、約20分間おだやかに沸騰させ色素を煮出します。熱いうちに、こし布をボールにひもで固定し、こし分けます。タマネギの外皮だけをもう一度ボールに戻し、約0.8リットルの水で同様に煮だし、こし分けます。これをあわせて約1.5リットルの染色液とし、50℃以下になるまで冷やします。
2. 模様をつけないで布等を染めたい場合は、直ちに布(紙でも可)を染色液に1～2分浸します。その後、布を取り出し、水を張った洗面器に数秒ほどつけた後、布を取り上げ軽く水切りをします。
3. 媒染液(別途、焼きミョウバン水溶液か塩化鉄水溶液を準備する)の入った容器に約2分浸します。その後、別のきれいな水の入った洗面器に数秒ほどつけたのち、布をとりあげ水切りをして乾燥させます。色濃く染めたい場合は、2と3の作業を繰り返し行います。

染色作業を専門的な科学用語で表すと、主に植物が生産するフラボノイド類やその類縁体のポリフェノール類をアルミなどの金属陽イオンで安定化、不溶化し繊維上に不溶性顔料を形成させる科学反応といえるようです。

草木染めは、太古から人々が身近にある素材をうまく利用して、生活に取り入れてきた技術といえます。脈々と受け継がれてきた先人の技術や知恵に思いをはせながら、人工染料とはひと味違う風合いを、ご自分で体験されてみるのも良いのではないのでしょうか。(詳細な染色方法については、書籍やインターネットでお調べください。)

### ★たんぱく処理(呉汁処理)について

草木染めは、たんぱく質に反応して染まります。シルクやウールは動物性繊維なのでよく染まるのですが、綿や麻の植物性繊維はたんぱく質を含まないので、事前にたんぱく処理(呉汁処理)を施す必要があります。それには豆乳(無調整)の大豆たんぱく質を利用すると簡単です。一度布を水で洗い(布についた糊を落とす)、豆乳を入れたたらいなどに2時間ほど漬け込み、脱水して影干しします。完全に乾けばOKです。化学繊維は染め付きがよくありません。



タマネギ(鉄)



アカネ(ミョウバン)



ログウッド(ミョウバン)

## 大和証券グループ

### 森林とふれあい体験2013開催

平成25年4月13日(土)、大和証券グループの社員と家族を対象として、「森林とふれあい体験2013」を実施しました。

このイベントは、企業から依頼を受けて、森林・林業への理解を深めていただくための取組で、森林教室、間伐体験、歩道修理用の杭作り、自然観察を実施しました。

まず、日本の森林についての簡単な講義の後、周辺の造林木を伐採し、枝払いや玉切り、運搬作業を通じて、間伐作業の重要性を体験するもので、参加者は足場が不安定な場所での伐倒や枝払い作業に悪戦苦闘し、間伐作業の大変さを味わいました。

午後からの自然観察では、エイザンスミレをはじめとする春の野花を楽しみつつ、歩道沿いの森林の公益的機能や森林の種類等の説明を受け、森林の重要性の理解を深めました。

参加者は林業作業や樹木が発散するストレス解消物質「フィトンチッド」を充分摂取することで、大いにリフレッシュして帰路につきました。



## 高尾山で春の野草を探す

4月26日(金)、日影沢周辺で春の野草の観察を行いました。当日は例年とは違い草花の開花時期が少し遅く、スミレ類を始めとした様々な草花に出会うことが出来ました。また、当センターの職員と高尾パークボランティア会の解説者となって、中身の充実した観察会となりました。中には約70～80種類の解説を受けたという方がおられましたが、残念ながら大半は忘れてしまったとのことでした。

自分も一解説員として説明をしましたが、みなさんとても深い関心を示され、自身も納得のいく説明ができた一日でした。



ラショウモンカズラ



野草の解説に聴き入る

## 高尾山一帯の外来鳥

### ガビチョウとソウシチョウ

裏高尾の木下沢で、夏鳥のクロツグミに似た賑やかで複雑な鳴き声を聞いたのは、今から何年前かは定かではありませんが、この時、「こんな所まで来ている！」と舌打ちした記憶があります。これがガビチョウ(画眉鳥)です。

ガビチョウは、後述するソウシチョウ(相思鳥)とともに、特定外来生物に指定されている外国種の鳥で、東南アジアや中国南部などに生息する体長25センチの鳥です。

我が国にはペットとして輸入されましたが、飼養が困難になった心無い一部の人間によって日本の山野に遺棄されたり、飼養されていた鳥が逃げ出したり(かご脱け)して、その生息域を拡大していきました。

八王子市では、1996年頃から浅川一帯で観察されるようになり、現在では本来の生息環境である低山の森林帯→高尾山一帯まで進出してきました。

この鳥が増えることにより、在来種のウグイス、シロハラなどの、昆虫食の鳥との餌の争奪が繰り広げられると思われます。生態的にはかなり強気な感じの鳥なので、在来種の生息を脅かしているのではと懸念されます。

ソウシチョウは、インド、東南アジア、中国南部などに生息する体長15センチの鳥です。日本ではその体色の美しさから1980年頃には本格的に輸入され、ガビチョウと同様の過程を経て、生息域を拡大。現在八王子市内では各所の公園、緑地帯で観察されております。

筆者は裏高尾町で少群を観察しており、営巣場所を競合するオオルリ、ウグイスなどに影響が出るのではないかと危惧しております。

いずれにしても厄介なもの(?)がはびこるようになりました。そうはいっても「鳥には何の罪もありません。悪いのは全て浅はかな人間の所業の結果」です。今更駆除と言っても、相手は天空を自由に飛ぶことのできる鳥です。今後は反省をこめて見守るしかありませんね。

(写真・文 大作栄一郎氏)



ガビチョウ



ソウシチョウ



■information 参加者募集中！

## セッコクと初夏の草花を訪ねて



高尾山6号路の溪流沿いにそびえる杉の古木に着生するセッコクを観察した後、初夏の草花を観察しながら山頂を目指してハイキングを楽しみます。

- と き** 平成25年6月3日(月)  
**集 合** 高尾森林ふれあい推進センター 9:00  
**解 散** ケーブル高尾山駅前 15:00頃  
**実 施** 森林インストラクター東京会(FIT)  
**内 容** 6号路～琵琶滝～高尾山頂(昼食)～4号路～ケーブル高尾山駅  
**対 象 者** 30名(応募者多数の場合は抽選)  
**参加費** 1人1,700円  
**持ち物** 弁当、飲物、雨具、敷物、双眼鏡等(あれば)

### 申込方法

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか。返信面には、お申込者の宛名をご記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「セッコク」係までお申し込み下さい。

★申込〆切 平成25年5月20日(月)必着



### 編集後記

高尾山口駅舎内に、今年もツバメがやってきました。ホームへ上がる階段の柱の上に、小さな巣を作っています。巣材を取りに行くところなのか、時折黒い弾丸のように、ツバメが改札から外に飛び出していきます。可愛いヒナが、巣の縁から顔をのぞかせるのも間近でしょう。夏の初めには今年のヒナが巣立ちます。季節の移り変わりの早さにちょっとめまいがする今日この頃です。(ま)

■information 参加者募集中！

## 初夏の裏高尾 静寂のハイキング



高尾山の稲荷山コースから大平林道、北西斜面の4号路を歩き、高尾山の植生の豊かさを観察しながらハイキングします。

- と き** 平成25年6月27日(木)  
**集 合** 高尾森林ふれあい推進センター 9:00  
**解 散** ケーブル高尾山駅前 15:00頃  
**実 施** 森林インストラクター東京会(FIT)  
**内 容** 稲荷山コース～大平林道～森林ふれあい館(昼食)～学習の歩道～高尾山頂～4号路  
**対 象 者** 30名(応募者多数の場合は抽選)  
**参加費** 1人1,700円(下山時ケーブルカー使用の場合、別途470円要)  
**持ち物** 弁当、飲物、登山靴、雨具、帽子、健康保険証、筆記用具等  
**備 考** 荒天中止の場合は前日19時頃に連絡します。

### 申込方法

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか。返信面には、お申込者の宛名をご記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「6月27日静寂のハイキング」係までお申し込み下さい。

★申込〆切 平成25年6月13日(木)必着

### Forest通信 No.294

発行:高尾森林ふれあい推進センター

Forest通信へのご意見・ご要望・イベントの

お申し込み・お問い合わせ先

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

